

「環境教育揭示用教材 第2号」の補助資料の活用例

児童・生徒の持続可能な社会を構築していくための資質・能力の更なる育成を図ることを目的として作成した「環境教育揭示用教材 第2号」(下の二次元コード・リンク参照)の内容を、より深めるための補助資料・活用例・ワークシートです。本補助資料は、一人1台端末を活用して、リンク先のホームページ等から情報を収集し、収集した情報を基に話し合いを行う等、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができます。

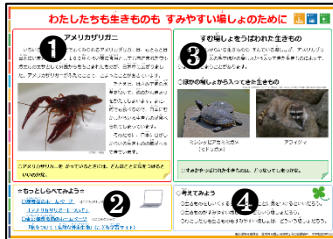
補助資料の活用例

わたしたち生きものも すみやすい場しよのために

揭示用教材



補助資料



ワークシート



- ① **ねらい** 身近な生物と人間が共存する持続可能な自然環境を保全しようとする意欲を育成する。また、生き物が住みやすい場所とその命を大切にすることを育てる。
- ② **環境教育における主な内容 (ESDの構成概念)** 自然や生命の尊重(多様性・公平性) 生態系の保全(相互性・責任性) 生活様式の見直し(責任性) ※環境教育指導資料 P8、P9 参照 (二次元コード・リンク参照)
- ③ **関連するSDGsの目標** 【SDGs 11】住み続けられるまちづくりを(小学校・中学校共通テーマ) 【SDGs 14】海の豊かさを守ろう、【SDGs 15】陸の豊かさを守ろう
- ④ **主な活動**

○活動内容	□教師の支援 ●留意点	◆補助資料等との関連 ■関連リンク
○補助資料①を見て、「アメリカザリガニを飼っている時に気を付けることは何か」を話し合う。 ○補助資料②環境省のホームページ「アメリカザリガニについて」を見て、外来種問題について知る。 ○補助資料③を見て、「住みかを奪われた生き物はどうなってしまうか」を話し合う。 ○補助資料④東京都環境局のホームページ「気をつけて危険な外来生物」を見て、他の外来生物について知る。 ○補助資料④を見て、生き物が住みやすい場所について考え、話し合う。 ○気付いたことや感想を発表する。 ※話し合いや発表の場面では意見交換やブレゼンテーションができるソフトやアプリを活用した授業展開が考えられる。	●外来生物であっても、生き物を飼育する時は、その命を大切に扱い、最後まで責任をもって飼うことが大事であることに気付かせる。 ●外来生物によって、住みかが奪われたり食べられたりすることにより、在来生物が影響を受けていることに気付かせる。 □必要に応じて、環境省「外来ザリガニ」を提示する。 ●多くの生き物が持続的に共存できる環境について、考えさせる。 □環境省「ミシシッピーアカミミガメ」・「アライグマ」の画像を提示する。必要に応じて、「外国からやってきた生き物たち」を紹介する。 ●生き物が住みやすい場所を守ることや生き物の命を大切にすることに気付くよう、振り返らせる。	◆補助資料① ◆環境教育指導資料 p40～ ◆ワークシート① ◆補助資料② ■ 環境省「外来ザリガニ」 ◆補助資料③ ◆ワークシート② ■ 環境省「ミシシッピーアカミミガメ」 ■ 環境省「アライグマ」 ◆補助資料④ ■ 環境省「外国からやってきた生きものたち」 ◆補助資料④ ◆ワークシート③

※東京都教育委員会ホームページで、本補助資料を公開しています。環境教育指導資料及び環境教育揭示用教材も公開しておりますので、併せて御活用ください。

補助資料
本資料



環境教育指導資料
教師用



環境教育揭示用教材
児童・生徒・教師用



わたしたち生きものも すみやすい場しよのために

ねん 年 くみ 組 なまえ 名前

- ① アメリカザリガニをかつているときには、どんなことに^き気をつけるといいのかな？



写真提供：環境省

- ② すみかをうばわれた^い生きものは、どうなってしまおうかな？



写真：環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)

- ③ ^い生きものがすみやすい^ば場しよって、どんな^ば場しよかな？



写真：環境省ホームページ (<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>)